

1. 第8回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

- 1 開催日時 : 令和2年1月14日(火) 10:00~12:00
- 2 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田 211-5)
- 3 出席委員 : 速水雄一委員長、作野広和委員、勝部博委員、内田正男委員、景山孝志委員、勝田康則委員、花岡俊直委員、田和貢委員、大作和弘委員



4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 委員長挨拶 速水雲南市長
- 3) 出席者紹介
- 4) 議事
 - ①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
 - ②尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ③尾原ダム水源地域ビジョンの更新(案)
 - ④令和元年度のプロジェクト実施状況、令和2年度の実施プロジェクト(案)
- 5) 閉会

5 配布資料

- ・資料-1: 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
- ・資料-2: 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
- ・資料-3: 尾原ダム水源地域ビジョンの更新(案)
- ・資料-4: 令和元年度のプロジェクト実施状況、令和2年度の実施プロジェクト(案)

6 議事要旨

1) 委員長挨拶

- ・尾原ダム周辺地域が有するさまざまな資源と尾原ダムの積極的な活用によって自立的、持続的な発展を目指して水源地域ビジョンが平成25年9月に策定され、今回で8回目の委員会となった、また今年度からはこれまでの実施状況や評価などをふまえた後期プロジェクトへと移行している。
- ・さくらおろち湖周辺への来場者数は順調に推移しており、今年度の来訪者も年間推計で前年度と同等になる見込みとなっている。
- ・昨年は2つの新規プロジェクトを実施している。1つ目は企業CSR活動に通算10回以上参加いただいた企業、団体へ感謝状の贈呈をしたこと。2つ目は、尾原ダムにて夜の尾原ダム見学と夜空の観察会を実施したこと。

このようなプロジェクトを通じてさくらおろち湖の持つ地域資源を積極的に活用しながら、地元や地域づくり団体など、多様な関係者の結びつきにより、本ビジョンが着実に推進され、斐伊川流域圏の発展につながることを強く期待している。

- 本日の議題でもあるが、「さくらおろちを活性化する会」とさくらおろち湖周辺で活動されている皆様が構成される「さくらおろち湖ネットワーク会議」の統合については、今後のビジョン推進体制強化を図るためのものであり、これによって地域がより元気になるよう、また積極的な取組が展開されるよう期待している。
- 本日は、地域の皆様や各種団体から提案のあったさまざまな取組について、忌憚のない意見を頂き、活発な審議をお願いします。

2) 議事

①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正

- ◆規約改正について事務局提案どおり承認された。

【事務局説明内容】

- 規約別表の委員名簿について、「花岡俊直、田和貢」に変更する。

②尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

- ◆事務局より、第7回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会以降の取組状況について報告が行われ、承認された。

【事務局説明内容】

- 第7回推進委員会後、さくらおろちを活性化する会を3回開催し、各プロジェクトの実施状況や各組織の取組内容等に関する意見交換を行った。
- さくらおろちを活性化する会での主な意見や情報交換された事項を報告した。

③尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

- ◆事務局より、ビジョン推進体制の強化のため「さくらおろちを活性化する会」と「さくらおろち湖ネットワーク会議」を統合し「新たなさくらおろちを活性化する会」を発足することについて報告が行われ、承認された

【事務局説明内容】

- これまで、主に地元住民が構成する「さくらおろちを活性化する会」が本委員会への報告等をまとめてきた。
- 一方、主にプロジェクトを実施する関係団体が構成する「さくらおろち湖ネットワーク会議」があり、別々に活動してきたが、これを統合し新たなさくらおろちを活性化する会として発足させて、ビジョン推進体制の更なる強化を図りたい。
- 新たなさくらおろちを活性化する会の名称は「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」としたい。
- 組織名変更に伴う尾原ダム水源地域ビジョンの修正箇所について説明した。

④令和元年度のプロジェクト実施状況、令和2年度の実施プロジェクト（案）

- ◆事務局より、令和元年度のプロジェクト実施状況、令和2年度の実施プロジェクト（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- 令和元年度もトレイルランニング、トライアスロン大会などの沢山のスポーツイベントが実施された。また、さくらおろち湖まつり、クレストゲートの点検に併せたイベントなど様々

なイベントや上下流交流も引き続き実施し、さくらおろち湖の魅力向上に努めた。

- 今年度から新たに「企業 CSR に 10 回以上参加した企業・団体への感謝状の贈呈」、「夜の尾原ダム見学＆夜空の観察会」、「奥出雲百姓塾」が実施された。
- 一方で、卵孵化装置でワカサギの卵を 700 万粒放流したが、現時点ではワカサギが獲れていないため「ワカサギ料理の開発」は未実施。
- トピックスとして、さくらおろち湖湖上花火大会は有志による募金活動により開催し、約 500 名の観客が集まった。
- 令和 2 年度も実施プロジェクト実施予定のとおり、令和元年度と同様に各種プロジェクトを実施していく。

【委員からの主な意見など】

- 今後、日本の人口が減ってもこの地域への来訪者を増やすためには民泊などによって外国人のマーケットを生んで行くのも一つの要素ではないか。
また、ゲストハウスのような小さな宿泊施設が増えれば外国人観光客も増え、これまで日帰りだった観光客が宿泊するようになっていくのが最近の全国的な傾向となっている。これについては 1 市 1 町で総合的な観光振興を図っていく上で様々な個人客などの宿泊の受け皿づくりの戦略が求められており取り組みが必要。
- ダム湖祭やトレランなどの前後に左岸広場とかを試行的にキャンプ場などに使用し、需要があれば、その後有効活用できると良い。
- CSR は 7 月、9 月と暑い時期の開催であり、長時間の作業は難しいかもしれないが、より効果がある形で実施を検討したほうが良い。
- 来訪者数の動向を把握するため調査している「周辺地域」の定義を事務局で改めて検討し必要なら見直すこと。
- トレイルランニング、トライアスロンは近隣には無く、また、トレランは特にトレイル（未舗装）率が高く、トライアスロンはオリンピック仕様で行われる本格的なものである。ここでしかないものを開催する事はこの地域の強みであるため、もっと PR したほうが良い。
- ワカサギが定着すれば、釣りやワカサギ料理などと連携して結構な観光資源になる。生息数を把握しながら放流等の取組の成果を確認してほしい。